

ゴミ問題も考える

清掃工場

東部清掃施設組合の運営等 に関する調査特別委員会

特別委員会
調査結果
最終報告

6ページ分の内、まとめの
ページを要約して
あります

当特別委員会は、東部清掃施設組合の運営等に係る調査研究をしてきたが、その傍らには南廃協との絡みも含まれていることが判明してきた。先ず、東部清掃施設組合の基幹改良工事に関して、当初南廃協の方針として南部地域での焼却施設の一元化の方向で進められてきた。

しかし遅々として進まない南廃協の灰溶融炉と最終処分場の用地選定と、東部清掃施設組合の基幹改良工事費の国庫補助金申請期限が平成17年と差迫った事から、南廃協会長と南部の3清掃施設組合の管理者との合同会議が開催され、「南部のごみ焼却施設の糸豊清掃施設組合への一元化は、地域の諸事情から困難である」ことが確認された。

その席上での発言要旨として「ゴミ問題は分散の形をとるのが大原則であり、東側（東部清掃施設組合）と西側（糸豊清掃施設組合）に焼却施設と灰溶融炉を持つことも視野に、もう少し時間をかけて議論すべき」との内容も報じられている。（南廃協の広報誌）

このことは、当特別委員会が調査研究した結果と一致する。

当特別委員会は後年度の住民の過重負担を避けることから、今回の東部清掃施設組合の基幹改良工事を推進し、合わせて島尻清掃施設組合との統合（平成23年度：合計人口11万6千人余）を視野に灰溶融炉の導入をも推進すべきと考える。

但し、東部清掃施設組合への灰溶融炉の導入に関しては、現時点では南廃協との絡みもあり、明言できないが、東部清掃施設組合事務局長が南廃協の第4部会（3清掃施設組合の事務局長で構成）で明言している「平成20年度末までに南廃協での施設建設の目途がつかなければ、東部清掃施設組合は灰溶融炉を導入する」を待つべししかないもどかしさはあるが、平成23年度で終了する沖縄振興特別措置法の期限内の高率補助のある内に、これまで築き上げてきた東部清掃施設組合内に灰溶融炉の設置と最終処分場の確保まで望むところである。



ところで、南廃協のスケジュールの大幅な遅れは問題である。それに伴い次年度以降も発生していく当町の南廃協への負担金に関しては、東部清掃施設組合の基幹改良工事に伴う負担金も発生してくる事を考慮すると議論の余地を含んでいる。

当特別委員会としては、財政難な昨今、過重なる住民負担とならない方向性を念頭に考慮し、調査を終了する。

文教厚生常任委員会所管事務調査報告 〈茨城県、鹿島群大洋村・水戸市〉

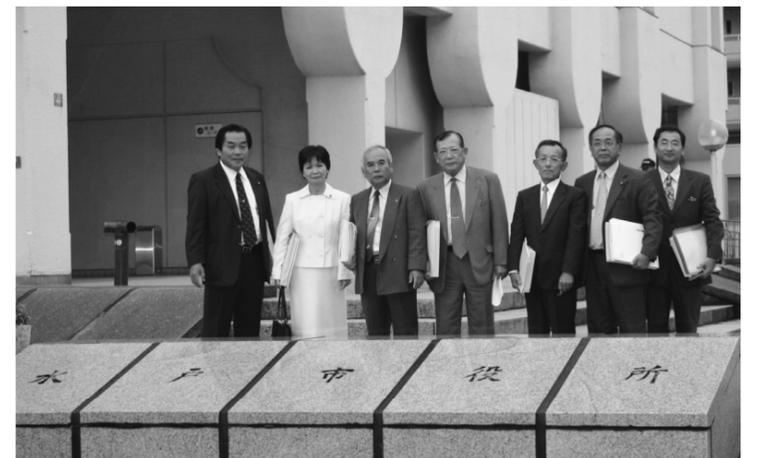


とっぷさんて大洋

10月4～6日にかけて委員6人事務局1人で茨城県大洋村の介護予防事業拠点施設（とっぷさんて大洋）と水戸市の子育て支援の視察研修に行ってきました。大洋村に作られた健康増進施設は昭和63年「ふるさと創世1億円」の交付に伴い村民のアイデア募集により、平成2年自治省の地域推進事業の指定

を受けて「とっぷさんて大洋」が完成した。健康づくりの拠点又観光レクリエーション施設基地として「高齢化社会への対応」「老人医療費」の削減の政策として運動指導及び健康教育活動を展開しています。

水戸市は、子育て支援のため「水戸市次世代支援対策行動計画」を策定し、少子対策、子育て支援を推進するため事業を展開しています。ユニークな政策としてはお父さんのための子育て手帳の「父子手帳」の配布、保育所での「休日保育」「夜間保育」など又保護者の緊急入院に対応するショートステイがありました。



水戸市